

巻頭言

子育ては、未来への希望づくり

古高 利男

子どもたちが大きな声を出して遊んでいる様子や屈託無く笑い合っている顔は、未来に明るい光を感じさせてくれる。それに比べ、戦禍で逃げまどったり飢えで苦しむ子どもたちの姿を見るのは忍び無い。

すべての子どもたちに、当たり前前の生活・・・家族がいて、三度の食事ができ、夜は温かい布団で寝られることを希求する。

今年度ののらえもんの活動は、14回実施し、のべ参加者数は392人。これらはコロナ前の水準に戻ってきたようだ。幼児や小学生の参加が増えつつあることは、うれしい兆しである。

子どもたちの参加は大人たちの仲をとりもち、行動は新鮮で学ぶべき事をつもたくさん与えてくれる。そこには成功も失敗もなく、みんなが先生であり生徒というつながりだけだ。多様性を尊重し合い、学び合い、開かれた活動の場となっている。

つまり、既成概念で固まった大人の思考回路を洗濯し物の見方考え方を自然体で伝えてくれる子どもたちの姿は、大人にとっては自分を映す鏡にもなっている。

「アウトドアライフを日常の生活に取り入れよう」というテーマのもとに実施した今年のキャンプは、なかなか味わい深いものになった。

各テントごとの自主的な活動が有機的につながりを持ったものになっていったといえよう。

食事の時は、レシピを教え合い、いっしょに交流をしている。

花火の時は、家族が集まり、お互いに安全を確認しあい、後始末は一ヶ所にまとめられている。

ゲンジボタルを観察に行くときは、家族の安全に配慮しつつ全体のルールを守ってくれた。

カヌーに乗ったときは、上流と下流でカヌーの安全に全員一丸となった。

テントで出たゴミはすべて持ち帰り、里山に置いていくことをしなかった。

子どもたちに声を掛け合い、遊び、見守り、食事を作る。個々でありながら全体では助け合いの気持ちが満ちていたキャンプ活動であった。

自然の中に身をゆだねていることと子どもたちの存在が、マッチングして味わい深いキャンプにしてくれたのだろう。

1月の雪国体験、2月の土呂部のメイプルシロップの樹液採り、この両方の活動も、人と人とのぬくもりをいっぱい感じさせてくれたのだった。

雪は寒いが、人々の心を温かくしてくれたのだ。

親子が気持ちを一つにして滑るスキー、お風呂のタオルが寒さの中でどうなるかの実験、大広間で行う自己紹介、みんな気持ちは一つになっている。

土呂部の活動では、里山やイタヤカエデの木の自然、ガイド役の日光茅ボッチの会の飯村さん湯沢さん、そして民宿水芭蕉苑の女将さんの、三位一体のすばらしいおもてなしを受けた。

里山のソリ滑り。雪の上に2本の線を描いて一直線！

太いイタヤカエデの木の幹に穴を開けると、なんと樹液が出てくる驚き！

ジャムと雪の、ここでしか味わえないかき氷！

暖かいコタツに、心のこもった食事、そしてたくさんの家族で食べる美味しさ！宿は、すきま風が入り寒いんだけど、女将さんの心のこもったおもてなしで暖かく、みんなゆっくりのんびりできました。

どの活動にも、自然があり、子どもがいる。子どもの気持ちをほぐし、そっと静かに気づかせてくれる自然。自然の助けを借りながら、大人は子育てをしているのだった。

子育てには、たくさんの人手が必要だ。さらに、時間がかかる。適切な環境も必要だ。ゆっくりゆっくりで、急がすことはできない。自発を待つだけだ。

その最前線に立つ子育て中の家庭には、親が安心し楽しんで子育てができる環境を整えていくことが、普通のこととして必要なことだ。

その一つは、当たり前前の平凡な日々がずっとずっと続くことだ。毎日同じ様な生活が、当たり前として続くことである。けっして国と国とのケンカなどをしてはいけない。日常が続くことこそが、子育てには絶対に必要なことだ。

二つ目は、労働時間の短縮である。夕方には買い物をして帰途につき、家事や子育てに協力できる環境を整えることだ。子どもはもちろんのこと、親にとってもストレスを少なくすることができる。朝早く出勤し、子どもが寝静まった頃に帰宅する。子どもの顔を何日も見ずに働き続け、家は「寝るだけの場所」となる。こんな働き方は変えなくてはならない。

三つ目は、「子は宝」である。子どもは、未来の社会を支える人々になる。大人たちは、やがてその子どもたちのお世話になるのだ。だから、応援しようではないか、子どもたちの未来を。子どもたちの元気な声は、未来社会の継続を意味している。だから、「声がうるさい」なんて言わないで、「お～、みんな仲良くな」と、応援しようではないか。

子育ては、未来への希望づくりである。それはまた、私たちが、今、一番必要としている「平和」への礎となるものだ。

のらえもんは子ども目線の活動を通して、多様な子どもたち一人一人が尊重され、その可能性が少しずつ開かれていくことを心から願っている。

2022年度 活動報告一覧

回	実施日	活動内容	場所	参加者
1	4月 3日 (日) 13:30～ 15:30	桜見物と カブトムシの幼虫配布	都市農業公園	大 18 小 12 計 30
2	5月 8日 (日) 全日	田植え体験とイチゴ狩り カイコの卵配布 坂野家住宅見学	宅間農園 坂野家 バス利用	大 34 中学 2 小学 17 幼児 4 計 57
3	6月25日 (土) 14:00～ 16:00	押し花遊び 6回目 大人ははがきを 子どもはテーブルクロスを	鹿浜五色桜 小図工室	大 10 中 1 小 4 幼 1 計 16
4	7月16日 (土) ～18日 (月) 2泊3日	第13回夏休みキャンプ体験 「アウトドアライフを日常の生活に取り入れよう」 カヌーに挑戦	日光市土呂部 キャンプインドロブツクル	大 24 小 9 幼 6 計 39
*	7月上旬～下旬	桃の販売協力 11年前にお世話になった宮原さんの桃を直販しました	塩山 宮原農園	
5	7月30日 (土) ～31日 (日) 1泊2日	夏山登山 「茶臼岳」1915メートル	宿泊 三とう小屋 温泉煙草屋 旅館	大 7 高・専 2 中学 1 小学 1 幼児 1 計 12
6	8月27日 (土) 15:30～ 18:00	ハゼを釣ろう 14回目 釣果 マハゼ46 セイゴ 2	都市農業公園下の荒川	大 9 中 2 小 5 計 16

7	9月11日(日) 全日	稲刈り体験 13回目 田んぼ遊び、虫取り 新米販売11月5(土) 合計625, 8kg	宅間農園	大 27 小 15 幼 4 計 46
8	10月30日(日) 全日	のらえもん大感謝祭 「芋掘り体験と自然観察会」 さつまいも144, 8kg収穫 午後は釣りに熱中	あすなろの 里	大 20 小 12 幼 3 計 35
9	11月 5日(土) 14:00~ 16:00	草木染め ハンカチやトートバックに模 様を着け、タマネギの皮で染めま した	山口宅の庭	大 9 中 3 小 2 幼 1 計 15
10	12月 3日(土) 13:30~ 15:30	サケの受精卵配布と紙芝居 くつつき草遊び *昨年に続き 鮭の受精卵500粒いただく! 5(月)に配布	都市農業公 園	大 11 中 1 小 8 幼 1 計 21
11	12月24日(土) 14:00~ 16:00	しめ縄づくり 稲刈りのわらを使って	鹿浜五色桜 小 図工室	大 20 中 3 小 10 幼 3 計 36
12	1月 7日(土) ~8日(日) 1泊2日	第15回雪山体験教室 「雪の里山体験 ・・・寒さを楽しもう・・・」 ・ 冬の星座観察、寒さ実感、 ・ カフェのらえもん ・	菅平ダボス スキー場 菅平プリン スホテル	大 16 大学 1 小 6 幼 4 計 27
13	2月 4日(土) 13:30 ~15:30	化石探し 講師: 下村庸三 * 化石の話し * 木の葉の化石採り	鹿浜五色桜 小 図工室	大 15 中 3 小 8 幼 5 計 31

14	2月25日(土)～ 26日(日) 1泊2日	土呂部のごちそう 「メイプルシロップの樹液採り」 1日目：ソリ遊び 満天の星 2日目：樹液採り	日光市土呂部 宿泊 水芭蕉苑	大 7 小 2 幼 2 計 11
	3月上旬～ 4月上旬	イチゴの直販の 協力をしました	宅間農園	

参加者合計 大人 226
 大学生 2
 高専 1
 高校生 1
 中学生 16
 小学生 109
 幼児 37
 合計 392

* 生物教材の配布

次のような生物教材を、
 希望する保育園・幼稚園および会員に配布しました。

- カブト虫の幼虫
- カイコの卵
- サケの受精卵（本年度も、受精卵を500粒入手できました）